



宮 城 県 現代俳句協会

N E W S

2025. 5 No.51



切株

吉沢 美香
(小熊座・むじな)

私は切株が好きです。切株を見るとなんとなくほっとします。切株を好きになったのは、《切株があり愚直の斧があり 佐藤鬼房》がきっかけでした。鬼房先生の句を読んで、切株と斧の持つ苦しさや意地のようなものに気付かされたと同時に、切株の凛々しさや逞しさ、落ち着きに惹かれるようになりました。

私は切株を見かける度に切株の写真を撮っています。二年前の春に撮り始めた写真も、今では千枚を超えました。多くの切株を見ているうちに、切株も一本一本違っていて、一本一本生きているのだとわかってきました。太い切株、細い切株、中が大きな空洞になっている切株、根本が崩れていてラピュタみたいに浮いているように見える切株、苔に覆われていて触るとふかふかしている切株、春になると桜に覆われる切株、夏になると断面からじゅわっと樹液が溢れ出る切株、色んな色の茸が生えている切株、年輪がくつきり見える切株、葉がすつと伸びている切株など様々でした。冬に雪が降ると帽子を被っているようになるのも可愛らしくて惹かれます。でも、どの木も数年前までは桜や林檎、青葉や紅葉をつけていたのだらうなと思うと、可愛いなどと喜んでいて良いのかとも思います。先日、松島の瑞巖寺前の切株は、津波を受けて塩害で腐り、切られたものだと思いました。切株にはそれぞれ切られた理由があること、切られた痛みがきつとあったことを忘れないでいたいと思います。

また、切株を撮り続けているうちに、切られて切株になった後も、変化が絶えないのだということもわかりました。苔に覆われていた切株は、外側が少しずつ崩れ芯のみが残り、今では以前の五分の一ほどの太さになりました。春に桜の花びらに覆われていた切株は、歩道の拡張工事で見えなくなりました。私の膝の高さほどあった葉が、根本から切られていたこともありました。自然に朽ちるのは仕方ありませんが、勝手に切ったものをまた切ったり、埋めたりと、人間が身勝手な切株や斧に対して失礼なことばかりしているのだと痛感しました。切株に痰が吐き捨てられていたこともありました。

これまでも切株の句を詠んできましたが、これからもたくさん詠んでいくと思います。切株が好きだからこそ、自分を含めた人間の身勝手さを自覚し、切株が積み重ねてきた時間に敬意を持ちながら、少しでも誠実に切株を見て、切株の瞬間瞬間を詠んでいきたいと思っています。

鬼房の掌は冬陽の切株

美香

令和7年度 宮城県現代俳句協会総会

令和7年3月29日、仙台市生涯学習支援センター第2セミナー室において開催。会員数94名のうち30名が参加、事業報告・事業計画等について満場一致で承認された。総会終了後、持ち寄り、席題1句ずつの句会を開催。

第1号議案 令和6年度事業報告

- 1 定時総会 令和6年3月24日 仙台市生涯学習支援センター (23名参加)
 - 2 吟行会 令和6年7月14日 塩竈吟行 (21名参加、うち1名欠席投句)
 - 3 第38回現代俳句東北大会―山形大会 (紙上大会)
 - 4 会報発行 (NEWS) 50号 (9月)
- ## 第2号議案 令和6年度会計決算・監査報告 下記の通り
- ## 第3号議案 令和7年度事業計画案
- 1 定時総会 令和7年3月29日開催
 - 2 研修会・句会 令和7年6月実施予定
 - 3 吟行会 令和7年11月実施予定
 - 4 第39回現代俳句東北大会―秋田大会 令和7年9月27日 秋田市開催予定
 - 5 会報発行 (NEWS) 51号 (4月)、52号 (10月)

第4号議案 令和7年度予算案 下記の通り

第5号議案 規約改正

- 次の各条項につき、↓以下のとおり下線部分を加筆する
- 第三条 宮城県在住の↓宮城県及び県外在住の
- 第五条の一 俳句会、吟行会、研究会、講演会、展示会等の開催
- ↓俳句賞、俳句会、吟行会、研究会、講演会、展示会等の開催
- ## 第6号議案 役員改選

- 顧問 高野ムツオ
- 会長 渡辺誠一郎
- 副会長 成田一子、坂下遊馬 (新、幹事長兼務)
- 幹事長 坂下遊馬
- 幹事 浅川芳直、大久保和子、大槻泰介 (新)、小田桐妙女 (新)
- 小田島渚、川名まこと (新)、菊池修市、墨河内玉枝 (新)
- 庄子紅子 (新)、鈴木三山、関根かな、高橋薫 (新)、嶺岸さとし
- 会 計 本木朱実 監 事 伊澤てつを (新)、星節子
- ※今回より、総会欠席者への資料発送は、経費削減、事務作業軽減のため、省略させていただきます。
- ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年度予算案

宮城県現代俳句協会 令和7年度予算案			
自R7年 1月 1日 至R7年12月31日 (単位：円)			
<収入の部>			
項目	令和6年度 決算額	令和7年度 予算額	備考
前年度繰越金	407,069	437,814	
地区助成金	158,400	180,000	90名×2,000円=180,000円
総会后句会参加費	26,000	30,000	30名×1,000円
吟行会・研修会参加費	21,000	40,000	1,000円×20名=20,000円を2回開催
雑収入	25	0	
合計	612,494	687,814	
<支出の部> (単位：円)			
項目	令和6年度 決算額	令和7年度 予算額	備考
総会費	13,395	14,000	会場費、総会后句会賞品
会報費	50,094	130,000	年2回発行(4月、10月)※発送費含む
負担金	16,390	30,000	第39回現代俳句東北大会
通信費	26,117	50,000	庶書、切手、レターパック、メール便など
事務費	10,512	10,000	インク、コピー、封筒、宛名ラベルなど
吟行会・研修会補助費	39,140	50,000	年2回、賞品、懇親会補助
顕彰費	7,832	10,000	大崎俳句大会、塩竈ジュニア俳句大会
交通費	11,200	30,000	監査、東北大会役員会参加補助
予備費	0	363,814	
次年度繰越金	437,814		
合計	612,494	687,814	

令和6年度収支決算書

宮城県現代俳句協会 令和6年度収支決算書			
自R6年 1月 1日 至R6年12月31日 (単位：円)			
<収入の部>			
項目	予算額	決算額	備考
前年度繰越金	407,069	407,069	
地区助成金	194,000	158,400	82名 (当年分@2,000×77名、@600×3名 過年度分2,000×1名、@600×1名)
総会后句会参加費	30,000	26,000	@1,000×26人
吟行会・研修会参加費	40,000	21,000	7/14 塩竈吟行会 (@1,000×21名)
雑収入	0	25	預金利息
合計	671,069	612,494	
<支出の部> (単位：円)			
項目	予算額	決算額	備考
総会費	10,000	13,395	図書券、会場費、懇親会補助
会報費	130,000	50,094	会報 News No.50 (9月発行)
負担金	30,000	16,390	東北大会負担金 (山形県現代俳句協会)
通信費	50,000	26,117	郵便代、ハガキ、切手、レターパック
事務費	10,000	10,512	インク、封筒、宛名ラベル、コピーなど
吟行会・研修会補助費	50,000	39,140	7/14塩竈吟行会 (図書券、会場費など)
顕彰費	10,000	7,832	楯 (塩竈ジュニア大会、大崎俳句大会)
交通費	15,000	11,200	監査、総会 (東京) 補助
予備費	366,069	0	
次年度繰越金		437,814	
合計	671,069	612,494	
上記決算書の各項につき監査した結果、その内容は適正と認めます。			
令和7年 3月 12日			
監査	星 節 子 (印)		
監査	中 村 春 樹 (印)		

総会句会

Ⅱ「雑詠」及び席題（後部座席）Ⅱ
 Ⅲ「高得点句」

10点 花束を後部座席に離任せり
 10点 春の月後部座席の子の無口
 8点 風船を持たされて佇つゴリラの前
 6点 後部座席に骨壺かかぐ春の海
 6点 靴底はいつも片減り初桜
 6点 鍵穴を擦り抜けてくる蒙古風
 5点 姦しき後部座席の花衣
 5点 春の虹後部座席に傘ひとつ
 われ等花見後部座席に犬置いて
 暴風のきのふでありし燕くる
 四月馬鹿後部座席を隠れ蓑
 春の夜シラカンスのごと眠る
 春愁や檻までも飛び出す絵本
 助手席に後部座席に花吹雪
 曳いてきた花の匂いと引き籠る
 震災の畑地巻き上げ春疾風
 やみくもに押し戻しても春の闇
 涅槃西風後部座席に母とめて
 春疾風踏ん張つてゐる五本指
 花冷の後部座席の待合室
 噂の染みたる木々や沼明り
 バス揺れて後部座席にある臘
 花弁一二後部座席に彼の人か
 卒業や後部座席の君去りぬ
 闘鶏へ後部座席に師を乗せて
 師の捲くる分厚きカルテ黄水仙
 仏像の顔に皺なし隙間風
 ハイタッチして後部座席へ新人生
 しずけさは後部座席の巣箱かな

伊澤てつを
 千葉和珠
 平山北舟
 黒河内玉枝
 坂下遊馬
 高橋薫
 成田一子
 嶺岸さとし
 浅沼眞規子
 大久保和子
 大坂宏子
 大槻泰介
 小田島渚
 小野寺みち子
 川名まこと
 菊地幸子
 菊地美紀
 日下節子
 小関桂子
 佐々木和子
 佐藤みね
 庄子紅子
 新藤綾子
 鈴木三山
 鶴岡行馬
 星節子
 丸山千代子
 丸山みづほ
 渡辺誠一郎



可笑しい虚子の俳句のいくつか

渡辺誠一郎

(小熊座)

へこみたる腹に臍あり水中り

「俳句と笑い」のテーマを前に、思わず虚子のこの句を思い出した。これは昭和十二年七月の句。前書きには「碧梧桐とはよく親しみよく争ひたり」とある。虚子はこの年の三月には、「日本及び日本人」誌上で、碧梧桐追悼の「たとふれば独楽のはじける如くなり」を詠んでいる。追想といえども、緊迫感のある独楽の句とは違い、臍の句には思わず笑ってしまう句意は明快。しかし体調は深刻。腹痛を起こし、下痢となって腹は完全にへこんでしまったのだ。その腹にある臍が、情けなさそうな表情を見せている。まさに滑稽そのもの。しかしここには、単なる滑稽さを超え、生そのものへと思いが深く沈んでいる。虚子は普段はあまり気が付かない臍の存在を改めて認知したのだ。病にあつて、自らの臍の情けなさという自虐的な思いが働いている。思えば臍は人間の生の起点、出発点だ。それがへこんだ腹から浮かび上がってくる。病によつて腹の上で一層露わになった臍から、虚子は改めて己の生を凝視している。それはそのままの句境の深さに向かうのだ。

死神を蹴る力無き蒲団かな

大正時代を迎えて間もなく、虚子はやはり胃腸病に苦しむ。医師はこれを腸カルタと診断。ここでの「蹴」の字は、よく使われる「蹴」ではなく、「蹴起」の一字である。蹴には、「たおす」「殺す」の意味がある。人を死に誘う神さへ殺してしまいたいとの気持ちには過激である。大胆な表現だ。そこに可笑しみの空気が流れている。大げさすぎる故に、かえつて可笑しみが滲んでくるのだ。さらに、虚子が死神と必死の思いで対峙している心境であつたことも伝わってくる。実際この時は、死を覚悟したほどであつた。詠んでいる虚子には、いたたまれない気持ちであつたのだろう。しか

しこまできると、虚子の死ぬ思いを受けとめながらも、読み手には、深刻さよりも可笑しみの方が勝つて来るように思える。それは俳句を成立させるポエジー自体が、可笑しみを抱えているからだ。深刻になればなるほど、その世界は滑稽、パロディーと背中合わせにあることを知らされる。

人間吏となるも風流胡瓜の曲るも亦

前書きに「嘲吏青嵐」とある。青嵐とは、関東大震災の時の東京市長であつた永田青嵐。虚子も鎌倉で大震災に遭遇するが、震災句は一句も詠まなかつた。以前ひ孫の星野高士にこのことを尋ねたところ、虚子は震災が怖くて詠めなかつたのだらうと述べていた。花鳥諷詠の範疇の外に震災はあつたようだ。しかし青嵐は詠んだ。それを虚子は「ホトトギス」に掲載した。〈屍焼く煙や秋の江を隔つへバラックに人生きて居る野分かなへ市役所の庭に産れぬ露の秋〉。青嵐は、まさに阿鼻叫喚の中で震災に向き合ひ、東京の復興に尽力した。辞世の句は、〈震災忘我に古りゆく月日かな〉であつた。震災の記憶は、青嵐から生涯離れることはなかつた。虚子の句は、この「吏」である青嵐を詠んだ。「吏」とは役人のことであるが、ここには多少の揶揄が混じる。素の人間が、人間らしからぬ吏になるとの認識が面白い。さらに、曲がつた胡瓜が登場する。法に基づいて、組織のなかで厳格に職務を遂行することを求められる吏。これに対して、自然の力に委ねるように、曲がるに任せる胡瓜との取り合わせ。それを仲立ちするように「風流」の世界が繋ぎとめる可笑しさ。自然も人の世も趣のある営みのなかにあることを指す意味なのだ。破調のリズムと相まって、絶妙な屈折感が効いている。

最後に軽みの一句。

昼寝する我と逆さに蠅叩

ワガハイノカイミヨウモナキススカナ

虚子と蠅叩きとは、頭を反対にしながらも、あくまでも対等である。そこが面白い。二句目は漱石の猫の死への電文。漱石の心情をおもん慮る一句だが、電文調の表記の為もあり、俳諧味が効いている。

阿の口をめざす目刺の煙かな

いしもた星人（滝・俳句スクエア）

真実や智恵にも譬えられる阿の「阿」。ここでの「阿の口」は神社の狛犬、仁王門の金剛力士像、または密教の阿字観と、何を浮かべて貰っても結構。あの重厚な像の存在と、目刺の煙の軽さを並べてみただけだ。世俗的な目刺を焼く煙が、阿の口をめざすという諧謔。煩惱即菩提。当然、めざすと目刺の韻の野暮ったさも狙い。

大久保 和子（小熊座）

新聞少年実はおしやべり秋澄めり

いつからか新聞配達が主婦らしい方から少年に変わった。大人しそうで人付き合いが苦手そうに見えたので、ある朝、ごみ袋を手に声をかけてみた。すると予想外に流暢な語り口で話し出したのは嬉しい驚きであった。配達が遅れては大変と早々に切り上げたが、少年というのは私の思い込みで、実は三十一歳の青年であることもわかった。

伊澤 てつを（小熊座）

うららかな加藤清正長雪隠

句会では賛同を頂けなかったが、自分では気に入っている句である。武勇に優れ、領国経営でも手腕を発揮した加藤清正。痔疾で雪隠に長く籠りながら家臣の様子などに思いを巡らしていたと池波正太郎で読み、清正の長雪隠として記憶に残っている。ようやく暖かになった一日、個室に籠ってコクリとしている髯面の大丈夫、平和だな。

大坂 宏子（小熊座）

やり終えしこと何もなし羽抜鳥

以前、遊園地にチキンバスケットというゲームがあった。回っているバスケットに、毛を塗り取られ、焼くだけにされた作り物の鶏を投げ入れるのである。何羽入ったかを競う。その鶏の姿があまりにリアルでみすばらしく、私の姿に似ていたように、子どもたちがお母さんがいるといっただけで笑った。

一 句 一 葉

テーマ 可笑しみ

囀りにまみれてゐたる旅カバン

伊澤 二三子（小熊座）

平成二十六年、春の若葉が美しい庭に小鳥達が囀って、春の旅へ出たいような陽気であった。句会終了後に主宰から「私の事を俳句にしたのかなあ」とにこやかに問われてびっくり。たまたま主宰が出張帰りにこの句会を開かれ、句の内容とピッタリなので困ってしまった。このような偶然が重なることも、俳句の世界にあることを知った。

泉 陽太郎（海原）

癩癩はクリーンエナジー木の芽和え

エネルギー問題、素人にはわかりづらいですが、要は石油や石炭といった化石燃料からの脱却、といったことでしょうか。無性に腹が立つ、これだつて立派なエネルギーです。活かせば次に繋がる、しかし無暗に放出すると周囲に優しくないなどと考えるうちに、木の芽和えの香りと触感にエナジーそのものが消えてしまいました。

神野 礼モン（小熊座）

「あんたでかいね」と兜太の声や柿若葉

年月を積むたびに思い出すことがある。塩竈市での鬼房大会に今は亡き金子兜太先生と挨拶を交わした折、私をしげしげと見つめ、「あんたでかいね」と破顔された。後年、掲句を成した折にムツオ主宰から「あんたでかいねとは兜太らしい。普通はがっちりした人を言うんだよね」とにんまりされた。季節が来ると決まって掲句が甦って来る。

浅沼 眞規子（陸）

零余子みなムーミンとそのお友達

五十年ほど前、数人の仲間と吟行の途中零余子というものを初めて見た。蔓に絡まれて顔を出した零余子は小粒な馬鈴薯のように動き出しそうに見えた。咄嗟にムーミンを連想した。当時テレビに放映されていたアニメなのである。その後の句会では意外にも受けた。仲間には故佐藤きみこさんもおられ、思い出が一層濃くなっている。

似顔絵が似すぎて不満生身貌

菊池修市（青岬・牧）

昔、大きな祭りには定番のかき氷屋や綿飴売りに交じって似顔絵描きが来ていた。その人の顔と形を捉えていて、描いてもらった方は笑顔である。ところが、突然年配の方が怒りだした。「こんなに年をとっていない」と主張していたが、どこから見てもそっくりに描かれていたことを思い出す。

母の手はマジシャンのごとじやつぱし

小田 桐妙女（陸）

亡くなった祖母も、母も手先が器用。私は父に似たのか決して器用ではない。包丁さばきも二人とも上手だった。二人との違いは、誰かの母親にならなかったことかな。因みに、じやつぱし（雑把）汁は青森県を代表する冬の味覚で、大根や葱を入れ、鰯の内臓や骨、皮などの「アラ」と呼ばれる部位を煮込む津軽の郷土料理である。

武者絵風落ちてざんばら髪となる

菊地幸子

3・11震災前、閑上海岸の清掃との呼びかけがあり参加。清掃後グループに分かれ風揚げをする事に。風は手製二枚との事。一枚は武者絵を、もう一枚はナポレオンの騎乗姿を描くことにした。ポスターカラーをたづぷり使い、模写は得意なので、我々から良い出来上りだった。さて青空に生き生きと揚がったが、武者の方は残念乍ら程なくして落ちてしまった。

バカボンのパパでいいのだ秋刀魚焼く

小野 豊（小熊座）

掲句は小熊座二〇一〇（平成二十二年）年十二月号の当月佳作抄に入った作品です。年齢も五十歳を過ぎ、職場では業績と評価にせめられながらも奮闘していた時期です。「秋刀魚焼く」の措辞に当時の反骨や悲哀が投影され、懐古的で可笑しみも感じます。ギャグマンガの天才バカボンは、何度もアニメ化され「パパ」は私の憧憬です。

第40回詩歌文学館賞

【詩部門】

中尾太一『フロム・ティンバーランド』（思潮社）

【短歌部門】

中根 誠『鳥の声』（角川文化振興財団）

【俳句部門】

中村和弘『荊棘』（ふらんす堂）

◆贈賞式

5月24日（土） 15時～16時 当館講堂

◆特別記念シンポジウム

「詩歌の未来を語る」

16時10分～17時40分

◇パネリスト

井戸川射子（詩人・小説家）

小佐野 弾（歌人・小説家）

堀田 季何（俳人・歌人）

暮田 真名（川柳作家）

◇コーディネーター

神野 紗希（俳人）

※入場無料

どなたでも参加できます。

ぜひご来場ください。

◆常設展 ベットと詩歌 開催中 ※こちらも入場無料

日本現代詩歌文学館

JR北上駅からタクシーで約6分
024-8503 岩手県北上市本石町2-5-60 Tel 0197-65-1728 Fax 0197-64-3621
URL <https://www.shikabun.jp> E-mail shika@shikabun.jp

【開館時間】9時～17時
【休館日】月曜日・年末年始
（ただし月曜日が祝日等の場合は開館）
【入館料】無料



夏の研修会案内

日時 6月8日（日）13時～17時

場所 仙台市青葉区中央市民センター第5会議室

講演 大槻泰介氏（脳神経外科医、宮城県現代俳句協会幹事、麦所属）

「意識とは何か―てんかん学からの考察」

参加費 1,000円

講演後、句会（持ち寄り、席題1句ずつの2句出し）

懇親会 会費4,000円

お申込みは5月30日まで、事務局坂下に葉書、電話、

ショートメール、メールいずれも可。

携帯電話番号 090-2982-7230

メールアドレス rakrakus88@yahoo.co.jp



第38回現代俳句東北大会（山形） 入賞作品

令和6年9月30日（紙上句会）

▽大会 佳作賞	箱庭の穴は防空壕である 風青し大樹の瘤は神の貌 ミサイルも西日も入るる日本海	高橋 彩子 浅沼眞規子 平山 北舟 高橋 彩子 小野 道子 嶺岸さとし 兵藤 康行 小関 桂子 平山 北舟 平山 北舟 齋藤 伸光 庄子 紅子 佐藤 みね 丸山千代子 兵藤 康行 浅沼眞規子
▽対馬 康子特選	箱庭の穴は防空壕である 惚れ惚れとした艶であり油虫 振花や童顔多き特攻兵	
▽成田 唯央特選	九穴の乾び覚ゆる炎暑かな カーブミラーの己に猛る夏鴉	
▽四戸美佐子特選	鬼やんま子らを引き連れ巡行す ミサイルも西日も入るる日本海	
▽渡辺誠一郎特選	東北の地べたかがやく雲の峰 漂ひて海月は母性透きとほる	
▽成田 一子特選	雲の峰魚の記憶に羽がある 星生るる蝌蚪が手足を動かせば	
▽鈴木 三山特選	父母亡くも我も帰省子山河あり 風青し大樹の瘤は神の貌	
▽坂下 遊馬特選		
▽大類つとむ特選		
▽畠山カツ子特選		
▽堀 尚子特選		

第61回現代俳句全国大会入選作品

▽恩田侑布子特選1位	蠶や言葉に飢えし地平線	大槻 泰介
▽村本 二本特選	言訳も修正もなし敗戦日	兵藤 康行
▽曾根 毅特選	蟻の目も一天体や秋の風	高野ムツオ
▽木村 聡雄特選	秋風や握れば砂に砂の声	高野ムツオ

第62回現代俳句全国大会作品募集

令和7年11月3日（月・祝）午後1時より「東天紅」上野店

投句締切 7月31日（木）必着

応募規定 ①3句一組・2千円 何組でも可。

②題詠1句（無料）。昭和百年の今年は、「昭和」をテーマにした俳句を募集。ただし、新作未発表作品に限る。

（題詠のみの投句は不可）

《送付先》 〒101-0021

東京都千代田区外神田6-5-4 偕楽ビル

外神田 7階

一般社団法人 現代俳句協会全国大会係



■慶祝

浅川 芳直 第49回宮城県俳句賞準賞

第48回俳人協会新人賞

小野寺みち子 第45回角川春樹賞

今野 勝正 第33回波新人賞

坂下 遊馬 第49回宮城県俳句賞準賞

鶴岡 行馬 第61回宮城県芸術協会文芸賞宮城県知事賞

檜野美果子 第15回北斗賞佳作

土見敬志郎 第23回蠶TATEGAMI賞

水月りの『姫林檎三銃士』（大沼英樹写真事務所出版）

アルテミスと姫林檎

大槻 泰介
(麦)

ギリシャ神話の女神の気高い口元と姫林檎が、句集の表紙を飾っている。句を読み進むと、この女神は狩と貞潔の女神アルテミスと分かる。

葡萄踏み月面濡らすアルテミス

葡萄踏みは元来ワインを作るための処女の行為であった。一方、姫林檎は何の象徴なのだろう。姫林檎三銃士は、姫林檎まもり隊ということか。

玉手箱開ければあの日の姫林檎

今も大切な姫林檎。例え割れても剥かれても林檎は林檎と作者は言う。林檎への想いは変わらない。しかしアリスを誘った兎はもう出てこない。

花冷えの人魚には無き足の爪

作者の第一句集は『人魚姫のトウシューズ』であった。人魚姫がトウシューズを履いた時の刺のような痛みは、もう癒えているのだろうか。

死者も又聴衆であり花の雨

薔薇を食う父と娘と黒い猫

誰にも訪れる親や友人の死。そこには死者だけが聴いてくれる誰にも言えない思いがある。作者は自己の奥深くに潜むイメージを語りかける。

ムカサリに降り積もる雪消えぬ雪

ムカサリは未婚の死者を悼み奉納する死者の婚礼（冥婚）を描いた絵馬。

雪は今生まれたばかり神馬立つ

水のソナタ私の耳の羽化

パレットにプルシアンブルー小鳥来る

かかとから冬の魚の影に入る

そして句集には多くの再生のイメージを含む句が現れる。音楽的な装いを纏う句も多い。「パレットに小鳥」、「魚の影に入る」は新鮮。

一面の白より白鳥生まれけり

句集は全体に詩的な言葉に溢れ、添えられた大沼英樹氏の写真も不思議な幻想に誘う。しかし句集の最後はこの「けり」の句で結ばれる。あたかも林檎探しの後の、女神の新しい決意を暗示するかのよう。

編集室から

◆好評をいただいている自句と自由文の「二句一葉」。会長からの提案で「可笑しみ」をテーマにリニューアルスタートとなり、序文として会長にも筆を執っていただいた。可笑しみの起こす笑いの効果は大きく、深刻な現実には絶妙なずらしを加え、硬直して動けなくなった心身を解きほぐしてくれる。笑いもまた時代を反映していることに気づかされる。「8時だヨ！全員集合」「オレたちひょうきん族」のアナログで体を張った笑い、「ダウンタウンのごっつええ感じ」のナンセンスな笑い。週末の伝説的なゴールデンタイムのお笑い番組が終了し、時代はどこか虚無的な雰囲気となっていた。今これらの番組を見てもかつてと同じように笑えないのではないかと思う。

◆当会は宮城県外の方もご入会いただけることになっている。多くの方のお力により一層充実した会とするため、ぜひ現代俳句協会及び当会入会のお声がけをお願い申し上げる。
(小田島渚)

photo俳句

満開の桜蜜食む雀かな

高橋 薫

(表紙の写真／東北大学片平キャンパス)

発行所 宮城県現代俳句協会 令和7年5月15日発行
発行人 渡辺誠一郎 編集部 坂下遊馬、小田島渚
事務局 〒989-2351 宮城県亶理郡亶理町北新町22-13
坂下遊馬 方

電話 090-2982-7230
メールアドレス miyagikengh@gmail.com